

人権学習展開例

第4学年

●主題名

外国につながるの児童の自尊感情

●教材名

お互いのことを認め合おう

(参考資料: Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラム 2011年
特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム)

●人権学習の視点

個別的な視点「外国人の人権問題」

●主題・教材について

外国人の定住化に伴い、学校には多様な背景を持った外国につながるの児童が在籍するようになってきている。その中で、すべての児童に、多様な文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を身に付け、外国人に対する偏見や差別意識を解消していくとともに、外国につながるの児童自身の自尊感情を高め、アイデンティティを確立することも重要なことである。

本教材は、外国につながるの児童が在籍または転入してくる学級で、学級開きや転入当初など児童の出会いの場面を想定したものであるが、学期当初の場面での実施も可能である。そのような貴重な機会において、児童が共に理解しあうきっかけを意図的に仕組むことで、互いを尊重しようとする態度を養うとともに、外国につながるの児童が自分に対して自信を持つことにつなげたい。

●ねらい

外国につながるの児童を含めて、お互いを尊重しようとする態度を養い、自尊感情を高める。

●関連する教材

人権学習資料集〈小学校編Ⅱ〉二つの祖国を持って(4年生用)

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○「出会い」の喜びについて語る。	一斉	○「出会い」がそれぞれの成長につながることを理解する。	○「出会い」に期待を持たせるような雰囲気作りをする。	
	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時の学習課題を知らせる。		
お互いのことを認め合おう					
展開	○出会いの活動を通して、仲間の持つ新たな一面に気付かせる。	個別	○自分で一つ質問を考え、ワークシートに記入する。	○各児童の得意なことや自慢できることを事前に把握しておき、ワークシートの項目を入れ替えるとよい。 ○教師の説明は簡潔にする。 ○普段あまり話すことのない人とも積極的に交流するよう指導する。	ワークシート
			○「こんにちは〇〇です。」と言って出会い、ワークシートに書かれた質問を相手に1つする。その質問に該当していれば、枠内にサインをしよう。該当しなかった人には、右下にサインをしよう。		

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	仲間のことをよく知ろう				
	○仲間の得意なことや自慢できることを学級全体で共有させる。	ペア 一斉 一斉	○ペアですべての質問項目について交流する。 ○ペアの相手のすごいと思ったことや初めて知ったことを中心に他己紹介をする。 ○もっと知りたいと思ったことを質問したり、すごいと思ったことを発表したりする。	○この部分に時間がかかると思われるため、前半の出会いの活動に時間をかけすぎないようにする（制限時間を設定するなど）。 ○教師も質問をしたり、感想を言ったりして、内容が深まるようにする。	ワークシート
まとめ	○お互いのことを認め合い、これからの学校生活をより良いものにしようとする態度を養う。	個別	○教師の話を聞く。 ○感想を書く。	○それぞれに得意なことや自慢できることがあり、それぞれを尊重することが大切であることを押さえる。 ○本時で学んだことが、その後の学校生活につながるようにする。	ふり返しシート

●評価

外国につながるの児童を含めて、お互いを尊重しようとする態度を養い、自尊感情を高めることができたか。

<参考資料>

●「CLARINET へようこそ」

「外国児童生徒受け入れの手引き」などの資料がダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003.htm（文部科学省ホームページ）